まちむら発見②

温故知新。～街の記憶を語り継ぐ～

神奈川県横浜市青葉区　「街のはなし」実行委員会

■「街のはなし」とは

「街のはなし」は、2014年からAOBA+ART（アオバアート）という地域のアートイベントを母体に、美しが丘中学校1、2年生の夏休みの宿題「わがまち新聞」「未来のわがまち新聞」とからめて、アーティスト谷山恭子が立ち上げた非営利の冊子形式のアートプロジェクトです。

この活動は、2011年の東日本大震災直後に被災地支援ボランティアに参加した谷山の経験を反映した「日常に感謝し、いつもとかわりない日々を祝福する Lat/Long project」というAOBA+ARTの参加作品として街なかに展開されたインスタレーションがベースになっており、加えて一過性のイベントとしてではなく街の資産として残るような作品を…という作家の想いから始まりました。「街の中で好きな場所はどこですか?」「なぜ、そこが好きですか?」という質問から始まるインタビューを、毎年、幼稚園児から80代の11名を選んで行い、多様な人々が住む街の日常を、それぞれの目線を尊重して切り取る、短編小説のような文体の「読みやすさ」「言葉の温もり」を意識したエッセイを、だれもが手に取れる紙媒体の冊子にまとめ発刊を続けてきました。

谷山の海外移住をきっかけに、2017年より運営主体を地元住民による「街のはなし」実行委員会へと移し、その場所に積み重なってきた時間を記録し、街が故郷へとかわりゆくプロセスを住民の声でつづる町史作りのプロジェクトへと発展しました。

街のはなし1～9号

■昭和のニュータウンの温故知新

たまプラーザは1960年代に先進的な都市計画に基づき開発された街です。地域住民のたゆまぬ努力によって良好な住環境が保たれてきましたが、開発から50年以上が経過し、地域インフラの老朽化とこれまで街づくりを牽引してきた担い手の高齢化が進み、今後のまちづくりを担う子育て世代は外に目が向いていて地域活動への関心が薄い、これまで小学校の生活科や総合学習に関わってこられた街の語り部は高齢化によって年々減少している、という問題があります。

「街のはなし」は次世代の街づくりを担う子どもたちと子育て世代に街の成り立ちを伝えることで地域への愛着を醸成し、まちづくりを自分ごととして認識してもらうためのツールとしての町史でもあります。街の成り立ちを知ることは街に愛着を持ち、街を守り育てるのは住民みずからであることに気づき、これからの街づくりに自分も参加するきっかけになるはずです。

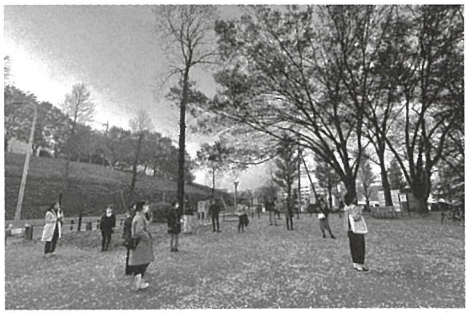
50数年前まで山だった土地が開発されて住宅地になり、急激に変化を遂げてきた街の変遷を住民目線で記録して次世代に伝えるために、これまでの9年間に101名の多世代にわたる人々へのインタビューを行い、住宅街の開発以前からの地元住民、高度経済成長期の時代の潮流だった郊外ニュータウンの住民第一世代の話も収集することができました。住民の街に対する愛着やこれまで積み重なってきたまちづくりの現場を捉えた充実したものとなり、新興住宅地として開発された1970年代前半

から現在までを網羅する内容となっています。

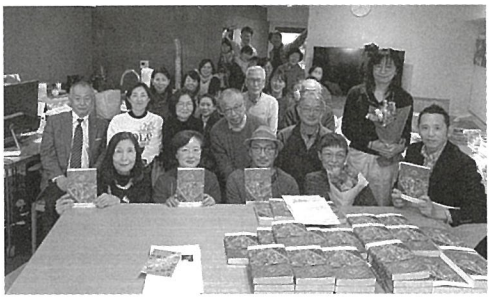
クラウドファンディングを行い2013年1月に101話をまとめた書籍を発刊しました。これは小学校の地域学習の資料ともなり、10年後20年後にさらに意味ある文献となるはずです。

「街のはなし」はコミュニティ形成にとって重要な人と人とのつながり・世代間の縦のつながりの活性化によるまちづくりスピリットの継承のためにリアルな体験にこだわっています。

聞くことも読むことも体で感じてもらうために公開インタビューや朗読会、これまでのインタビュー音声や住民による朗読を使って構成した聴覚からも楽しめる「サウンドウォーク／耳の街歩き」企画や街なかにQRコードを刻んだステンレスプレートを設置し、地図をたどりながらゆかりの場所で「街のはなし」の朗読が聴ける仕組みも作り、多角的・直感的に街の来歴を体感できるようにしました。


耳の街歩きツアー

私たちは、プロジェクト規模の拡大やお祭り的なイベント、演出の派手さなどにはあえて力を入れてきませんでした。そういった目立つ活動に発展させていくことは解決策の一つではあると思いますが、実際にはそうしたことから距離をおいて静かに暮らしている住民の数が多いのは明白です。そういう一般的な市井の生活者の日々の暮らしからこぼれる言葉・語りを拾い上げ、現実的な記録を作りたいというのが「街のはなし」の立ち位置です。表層的に良く見えるアプローチは「ネームバリューのあること」「地域での発言力のあること」がパワーとなるヒエラルキーを形成し現実を覆い隠しかねないので、意識的にそれを避けて話者の名前のかわりにその場所の緯度・経度を記録してきました。そして、地域との程よい距離を保つためにアーティスト（街の外部者・谷山恭子）の作品としての側面を保ち、地域に委ねすぎない形をとってきました。


書籍発刊記念会

街のはなし書籍

「街のはなし」は長年この街で暮らした人々にとっては「あるあるたまプラーザ」、若い世代にとっては「たまプラーザのトリビア」です。これが世代間の対話・交流の場を作り、街の歴史をつなぎ、より良いコミュニティ形成のハブとなることを目指しました。今ここにある環境は行政やデベロッパーに与えられただけものではなく住民が努力して作り上げてきた先人からのギフトであることを若い世代に伝え、自分たちが50年後に生きる人たちへ何を贈ることができるのかを考えなければなりません。街への愛着と共に次世代を担う人材の育成によるサスティナブルな環境創造の一助としたいと考えています。

（「街のはなし」実行委員会代表　藤井本子）

【参考】

https://machinohanashi.com
https://www.facebook.com/machinohanashi/
https://twitter.com/machinohanashi
https://note.com/machinohanashi/
https://www.instagram.com/machinohanashi/